

崔松原御影の杜生田の谷四方十里間兩陣小燒雲火と三天の星斗
 擲于小落め小異方とす。時小間者弛飯り扱も三草山の二戦小敵敗
 軍一の至上女院二位殿が始宗盛供奉とく潛小皇居が忍ひ出
 御船小乗奉り追手と知盛が加勢と。山の手と能登殿兄弟一
 萬余騎ゆく向れゆと言と。義經公緒將が會とく軍議有
 故清盛の二回忌景あれを源家再興の軍小敵の佛更が妨へも無
 道なり。五日八甲子六日八道虚日介ふ小より。七日の卯尅が最初の
 矢合し定とる然とくも敵の要害の城廓小而も大軍小く立巻たれと
 左右なく攻落ん更難とくも更難小隙とく懼謀が好と成と具の武
 士の所為を信古今の軍が考る小敵軍の機が察とく其不意と
 伐其来銃を避とく其潛飯が伐ん小勝とくし更なり。傳回魏の郭

六十五
 本大學出版部

13
3331
10

艾蜀戎攻ししを小蜀兵多勢少く斃商小支し其破りたれ量り
暗小陰乎道とく人迹絶る間道戎行更七百里峻山絶谷の鳥も翔
がた功所戎鄂艾船遭戎以て吾身戎畏る轉び下の將士是戎
刃く我もくく木戎攀葛戎手操く蜀地小竊入逐小蜀兵戎敗れ
里几軍も高戎好く低戎悪も陽戎貴く陰戎賤と縋り此度の軍
其機不當まり鄂艾が術小方くひく吾三百騎戎率一の谷の辰
ある鴨越戎下しく城中攻入をさりあがく敵の虚戎伐せんむ
益有る猪将之本部の軍馬戎率く西の城戸押寄表経向たる
如くともあし追手し月時小軍戎初を城兵二所小覆らむ相圖の
狼煙戎上りしと命ト主肥次郎美手戎大将しく搦手向かせ射を
三百騎ゆく間道と赴ひひ多斯く聖を二月七日追手の大將蒲の
冠者範頼公三万五千余騎ゆく押寄らるれむ搦手小も土肥美手緒

軍小指揮しく西の城戸小を攻寄る數千の白旌武庫山嵐小翻る光
景白竜天小神がてくたり兼くの合圖をれを東西の寄兵月時小金
鼓戎鳴し喊戎嚏と上るれむ城中ゆも十萬余騎の猛軍日く因を
そ合せたる其音宛も百千の迅雷度小墮るゆしく山岳戎揺し河
海戎漂し心地しく上る九天小卿響く梵天帝釈も是が為小鼓くくま
下と龍宮城迫徹下しく八龍王も睡戎覺らんを覺るる追手小
と武藏國の任人川原太郎高直月次郎盛道一番乗せんしく逆茂
木戎踰り柵戎越く進し小城中より真鍋五郎助先しり鍛練の精兵
走出一の壺小川原太郎が弓手ろ草摺ろ余戎強く射徹し一の箭小
次郎が腰ろ骨戎射くくまを雜兵猛出下合く入戎射取り握原
手三月源太月手次木大も怒り五百余騎ゆく斬るへ勇戎奮く戦ひ
くまを城中よりも斬中納言知盛本三位重衡二子余騎ゆく打ち出追

カノ同

時大雪路成埋く飯路成失く小管仲老馬成進く其蹄跡成慕ひ逐
 小路成得くくし之汝心付取面白くく。翌日早天小薄雲くし
 名馬小鏡鞍成置白雪くげ白手綱結く真先小追立須波進のし
 二百余騎まも踐も刀ぬ山道成声成合く分登み頃も如月上旬乃更
 ままこ嶺乃白雪班消小花くく刀名る絶間より溪の鶯音信く春告
 負小轉くも深谷乃嵐尚寒く面成則小異かき手足劔くも斬
 が如く向上ぞ劔山高く徑く松柏日影成隱く直下ぞ碧岩露濃
 小くく宛も藍小深かすが如くく洞谷深溪と經山路小日成暮く
 五木も不知山懐小薄成取く所武藏坊年慶一人の猿走成呂連く
 大将の御前小出是此辺の若小略案内成も知くくかくく山乃案
 内も御尋ひくし中々成義經公御喜悅斜あらず彼者成近く召
 是此山成越く手家の城中へ忍入谷成道やあぬ教いし仰くもと備

翁頭成傾け更も跡の御言や此山ハ鳥も通ぬぬ嶮岨少くくは。止丈乃
 溪十五丈の巖何幾くもなく。幾くたる峯遠く徑くく雲小連り恰も
 虎豹の蹲くく。絶谷原来無路くく手仗乃石壁削成が如く。此所成
 越く下とこの谷乃通結小落くへ登くく。容易人馬の通る路可有
 くも不覺鬼神なりくも越往く更思もより言とす。大将聞く真
 小奇代の劔岨もあまも有かん併ながく鹿兔乃通路を無手くし
 多小翁各く折節と通ぬ更も有け小いし。義經聞り猪鹿乃通る徑
 の山成馬の通ぬ更もあす。汝案内せよ一落く落く刃んと曰公羽がいろ
 甚と老衰仕り行歩心小不任は是非落く玉のとなく。手乃成御道指
 南小進せしく御前成退死暫時有く一人の若者成連来れり義經
 公是成乃身小。身乃丈高く色赤黒くく筋骨逞を童あく凡庸あ
 らぬ頼魂あるが掃乃衣小。小川色の袴成著く藤巻乃弓小猿皮乃成

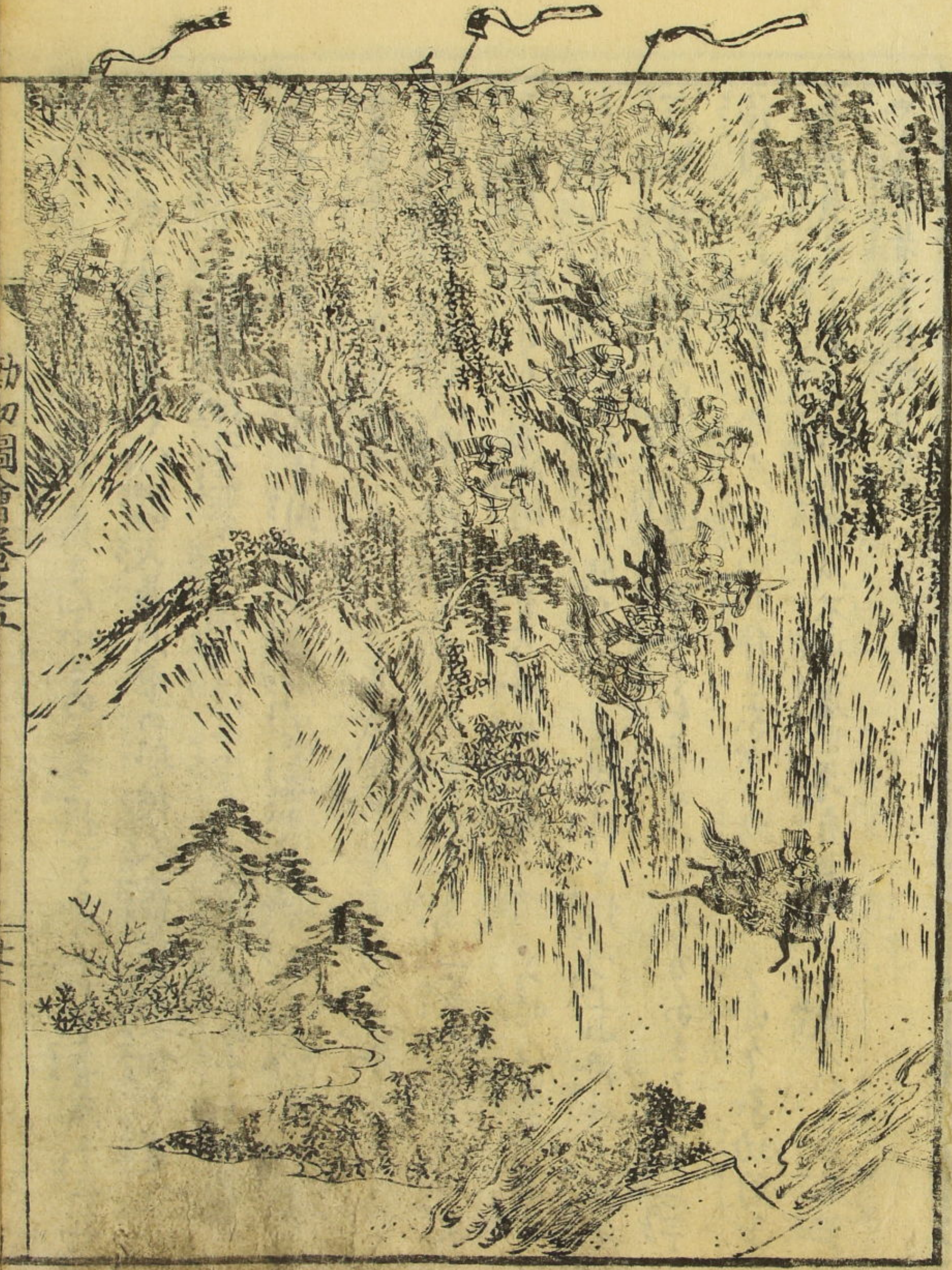
肩猪箭山の指くり大將嘆美いひ老父小向ひ彼ハ汝分見る量骨柄真小天暗の勇士也年々何歳名何と称ぞと向ひてくは年々十八歳名八熊王凡と呼いと言上寸大將亦向ひて汝達父子を為射成つるの小碌くくく捕師あはの業小生涯成終る者とも刀をえす察る所先祖武士あはこや有ん素姓こそたまわしれし仰る小老父涙とくく流し。まや大將軍の御明察し。愧死御錠る斯る身小成くくも噫呼がましくいへども御尋の難有る小言上仕原来其父と根源源氏あは就馬尾庄司武久と者少く數あはれしも箭前小携り獲馬の二頭然も飢ひひが平家の逆威ふより難波次郎が為小所領不残押領せられ斯る山林小零落し。言甲斐あは捕師の業小身命成般念いし鼻おろく結々を大將も憐れむ扱八由緒といひ流乃未ありたるや。今時小奉會せしこそ幸あれ不肖あは

吾々左馬頭義朝が八男源九郎義経といひ者なり。今般平家進討の院宣成蒙り。搦手の大將軍成承り。熊王成吾小得させを主従乃因成結び俱小依あふ手家成亡し先祖乃爵憤成散し絶たふ家名成引真させんと仰れ。父子を躍上り勇悦ひ遂小義経公成王君と拜し奉り。大將も御欣喜斜かす寸即坐小白銀乃筒金物入る太刀赤革緘の鎧小白星乃五枚兜鹿毛乃幼小鞍置賜り能王成改就鳥尾三郎経久とぞ召さる。斯く其夜も明渡りてまご。彼就鳥尾成案内者。或は松乃末草の根小取付或は繩成岩角小結下く是成使小谷成渡り。百手子苦くこの谷鴨越の上方小蜂伏蟻戸乃拳嶺小攀登り。下成臨刀々の小。是より空山小く沙石滑小足の溜途た。落垂れ申たより谷成。義経公成も懼む。子成麻の通路と馬の狂場方をも面く手綱を引上り緑玉浴し小

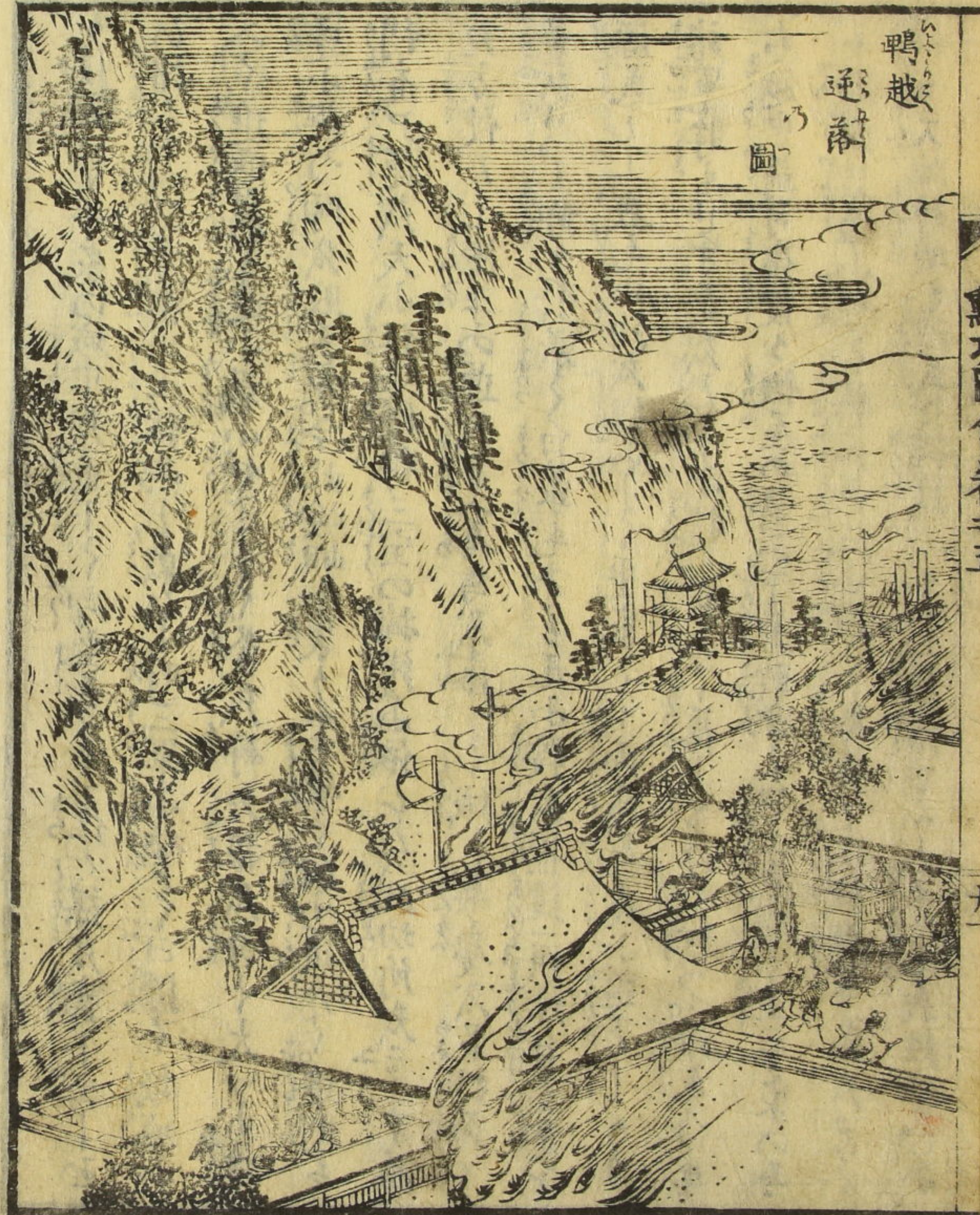
カノ...

廿 ちやと船大夫黒の逸物哉進く真魁小落り夕たに従軍是小屠さ
 まく連くとしく落す程小先小進兵乃甲乃天辺六後此馬の頭おそ
 當々歩平八柴茂東く尻小一死之落小落りけり扱衛山乃四成
 所小到く入く息継馬足休指睨るるふ。の平乃城廓須磨手の内裡
 眼下小刀えり。今や合戦最中と刀えり。赤白の旗入乱き須磨上野
 の春風小若木の桜散紛らと姫しき。兩軍の鯨波浦吹風の相和く
 鞞鼓雲小東を破煙天茂掠り須波時分と。早落せと指揮し
 りし下數十丈岩石屏風茂き。岩角嶮峻小。刀山劔掛小
 一般より雪を斑小消残り。いと苔滑わく人馬乃足のまろ死中なり見
 小肝冷魂消互小眼と眼茂見合せ近も死ん命あを敵小逢く潔く
 討死せしもの狐斯る坊所小来り。吾徒皆函谷乃鬼とあらん
 更の口惜さよと後悔せぬなり。義経公と緒率乃繼茂耳ゆ

うけむす手家の城中茂直下く御坐在くが佐と練茂業し出り五
 ひ緒入小向く昔秦の王猛燕と戦ひ一時三軍小誓く曰深く敵地小
 へく進退窮る速小戦小如く。釜茂碎れ狼茂奔く大乃小進
 遂小燕乃師茂敗まり。今此嶮岨小来り。退く飯小道乃進則と
 利者只運茂天小任。佛神三室の擁護小依と。此坊所茂落す。危
 危方使乃。源平の運茂自為馬茂落く。絨と。毎慶茂召れ而く
 量ひ。仰々れ承く白葦毛乃馬小鞍茂置鎧二領結合と。是と
 源氏と。鹿毛の豹茂線小。手家と。兩馬茂一度小追下り。けり
 緒軍時もせす是然んる小。聘も。落とも。下つ。源氏乃馬
 と越中前司盛俊が假屋の前小下著戦身し。二声嘶く。手家の馬
 と蹄茂岩角小碎く。轉落半死小成。起立。不能緒軍是茂。んく
 扱と天地神明も源氏と擁護し。早落せ。勇と。義経公天小



力ノ圖



鴨越
逆落
ノ
圖

集五

悦よろこみ入いり馬うまを王わうが心得こころえて落おちさん小こさのこと損そんずままたどど吾われ成なりて本もと小
 乗のり下くだよし鐘かね成なりちち鐘かね松まつ人ひと馬うま成なり勇ゆうの船ふね彼か大夫たいふ黒くろ成なり無な鎖さ鎮ちんく真ま先せん小
 進すす子し尋ゆんの石いし壁かべ万まん仞びんの巖いわ成なり手て綱なわ操そう乗のり下くだのま真ま小こ凡ぼん人ひと業わざしと刀やいばを
 りはず是これ成なり刀やいばをかくか龜かめ井い片ぺ岡おか伊い勢せい河か佐さ藤とう武ぶ藏ざう常じょう陸りく成なり始はじめ三さん百ひゃく余あまり騎き
 命めい成なり高たか毛もうもも狂くるんん吾われ先せん小こ馬うま成なり進すすめめ度た小こ揃そろく落おちしし就す中ちゆう
 島しま山さん重じゆう忠ちゆうと赤あか威ゐのの胃ゐ小こ大たい鷹たうの功こう生せいるる箭や成なり肩かた高たか山さん蓋あふ毛もうとと成なり東とう
 一いちの發はつ馬ば小こ乗のりととりりがが此こゝ所ところ大たい吏しのの悪あく所ところなり馬うま損そんくく暗くらろろ軍ぐん小こ高たか名な
 と成なりたたししとと内うちとと起おこ下くだ手て綱なわ成なり以もつて馬うま成なり縛くわりり鎧よろいのの上うへ小こ撥は肩かた推お木
 一いち抹ま吏し技ぎとと杖つゑ小こつつ丸まるのの逼せま成なり徐じゆくくとと下くだられれ々々のの勇ゆうああるるれれ重じゆう忠ちゆう守しゆう
 治ち川がわややくく大たい串くわい太たい郎らう成なり鍛たう小こ取と付つせせああるる踏ふ渡わたりしし今いま亦またくく糸いと坊ぼう所ところと
 馬うま成なり肩かた下くだ吏し前ぜん代だい未み例れい成なり不ふ皮かわ後ご世せい再さい有ゆう命めいししもも思おもははるる聖せい動どう
 やし見み者もの吾われ成なり戦せんせせららり

傳たつと曰いは義ぎ経けい逆さか落おちるる吏しとと天てん地ち神しん明めいのの擁よう護ご小こ倚よ所ところなりとと魚いさな一いち義ぎ経けい
 の針はり略りやくより衆しゆう心しん勇ゆう成なり生せいぜぜ故ゆゑなり故ゆゑ八はつ彼か源げん成なりるる馬うま小こ鞍あんをを置おけ
 且かつ鎧よろい成なり肩かた一いち平へい家けのの馬うまをを裸はだかしく落おちされれ吏し是これ義ぎ経けいのの郎らう智ち
 なり夫それ得え馬うまをを己おの身み輕かろくく自よ由ゆうなりなり小こよりより自よ然ぜん心しん怠たいりり光あき先せんぬ
 亦また鞍あん置お馬うまをを鎧よろい成なり肩かた身み重おもくく自よ在ざいなりなりとと故ゆゑ小こ馬うま心しん怠たいなりなり
 無な吏し小こ下くだ吏し得えるる義ぎ経けい是これ成なり量りやう知ちるる猪ぶ軍ぐんのの心しん成なり引ひききののみ
 一いち頓とん智ち中ちゆうくく凡ぼん慮りよるる及およぶぶ小こああるるすすとと云いふ

一の谷落城 義経首實檢之條

義ぎ経けい公こうのの御ご勢せい三さん百ひゃく騎きととるるのの難がた所ところ成なり真ま逆さか小こ落おちせせしし小こ氏うぢのの神かみ八はち幡ばん
 大たい善ぜん之の御ご加か獲と小こやや一いち騎きもも損そんぜぜしし一のいち谷たにのの城しろ中ちゆう落おちししへへとと大たい將しやう乃の
 明あき察さつるるここ此こゝ手て八はち山さんのの峻たけ峻たけなりなり成なり頼たのみみととるる柵さくのの重おもももああるる士し
 李り一いち人ひとももああるるととるる年とし慶けい士し卒そつ小こ命めいししここくく用よう意いせせしし燒や草くさ小こ火ひ成なり

付く役所く小投るに折節西風烈く吹まると車輪のつらた
 八方小散乱し世余個所小火移り日時小燃上り黒煙天地成るめ
 猛火東西小逆ふ其下より三百余騎の兵乱入鉦鼓成す開成作
 斬り回りに其音山谷小響く幾千萬の勢も知ざりたり平家の
 軍率仰天し是は何國の敵し周障狼狽成得たりや賢し此所
 小斬伏彼所小突伏生捕分取意の尽小働り火勢八次勇小盛小成
 く皇居成始一門の公卿緒從眷属の家二守も残ず火し成り煙
 小迷る女童とは叫ぶ右往左往小迷呼火の中剣のよも不言倒
 轉く命成失形勢是や奈落の罪人が在勢大焦勢ろ焰小身を焦
 しカ山劍樹小骨成貫く牛頭馬頭の可責ろ槍ろ下小泣叫も斯や
 し思知まき追手搦手の寄兵城中の烟成る頃波山の手の味方
 城内へ忍入る火成掛し唯一季小探破し勇氣日來小百陪く曳く

声成出り攻まふ小ど城内の火勢小氣臆したる平家維有る防し
 とどろ者なく主親成も突倒し道成奪り落行り寄兵を得
 且し東西二度小探破り我高名成頭さんと勇進し斬り回る西の城
 戸の主将門能登守教経と武勇才幹衆小超形容抜群小
 丈七尺小余リカ萬人小勝する上小天性法ろ妙成得る大弓成放
 つ小百發百中の達人かまは前種成惜す引取差結射られれを
 此箭先小向者一箭前小三人五人串刺ろり成り命成頭す手とつ者
 介るも猛火烈く味方散り小落行れを續岐六郎主成
 練老如何小矢猛小思召しも今ハハ寸ハ寸某君小代リ防箭仕ら
 疾落りへと再三再四練争ひ遂小教経乃鎧成乞る手早小著る
 能登守教経是小在と各棄大弓取る嚴く射立れ源軍藏の能
 登殿とし心得敢る逆著者ふなき能登殿と薄墨しり名馬小

カノ間

跨り濱手式きしてぞ落らまき々家平家の二門が杖柱と頼坊と能登
 殿さし期のごくおまき六自余の人争う堪ぢる猪率未だく敗ま我も
 くもし濱手へ逃崩船小乗後しとく余小乗とる海中へ船小乗沈
 底の木屑しあろも多りりたり船小乗得ず源氏の武士小射り大將か
 小と正三位左近中将重衡と清盛提原源太生捕奉る從三位越前守
 通盛と肥後盛の男佐々木盛經が男木村源三成細射取正三位陸奥守
 忠度と肥後盛の男岡部六弥太小射を從五位下尾張守清貞日淡路守清
 房二人とも小清若狭守經俊經盛の男此三人と乱軍の中小射死し從五位上
 武藏守知章と知盛の男見王堂小射を正四位下但馬守經政と經盛嫡子經俊
 河越太郎小射を無官大夫敦盛經盛の男能谷次郎射取從五位下
 備中守師盛と重盛の男本田次郎近常小射を從五位下門脇藏人業盛業盛の男
 能登守事土屋三郎宗遠小射を侍大將越中前司盛俊猪俣小平

六則經射取知盛の侍監物太郎八兒王堂小射取能登守教經經盛の男
 と遠江守義定射取其余は之の輩八死小違あし或は火中へ小射し
 或は敵小射まて死致す者幾百子の數あまらず。乃谷生田の杜
 東西の城戸口搦る前逆茂木の下小横へる源手人馬の尸を山に如
 く白砂都く紅井小妻しり抑此二谷の城と西國第一の要害小く
 究竟の名城おまき恰も崎函の固のりあり上十萬余騎の鉄騎籠
 たまむ假令幾百萬の勢あて攻るも之を浴をくごら小。相國へ通る
 暴悪報来り。門泯滅の時前到來し。天義経との名將茂隆し。奇
 術戎以て攻伐し。ひひ鐵門銅鎖の固高擔大厦の美も忽ち二片の
 煙乃下小万抹空し。灰燼と成るるこそ淺猿々も斯く九郎御曹子
 と小高死所小陣戎居敵味方の剛臆死にひ軍令茂傳り坐々
 味方十分勝利成得分捕高名區く少く。さしも平家十萬余騎と安

一も何時浦風の音のりたりを勝喊三度揚させ二角もも美檢
右んく。旗下乃軍勢成配列。方圓乃陣成布。先前的右手も
後藤兵衛元父子は五騎。左手も田代冠者信經十八騎。中兵小も大
將軍義経公赤地錦乃直垂小。継威の鎧龍頭乃鬼成著し。長刀横く
曲録小。腰打掛多し。左小佐藤副信目忠信。鈴木重全。亀井清重。片岡
廣常。能井忠元。常陸坊海尊。江田弘元。右小録田盛政。備前就暗伊勢義
盛。就鳥尾経久。八瀬忠実。鬼次郎幸胤。鬼三太清悦。木只八郎。小田手を
堀弥太郎。武藏坊弁慶。佐志藤八三人を執筆の役。緒士の今取
高名。成死させ。後三方の義経公乃脚勢五百余騎。少く。一町前
小も土肥岡寄以下一千余騎。少く。支。其跡。小巖重小。ぞ。ん。小
く。の。浦殿と磯辺。成。地。回。く。逃。不。敵。成。追。討。せ。く。く。遠。小。此。跡。成
ん。く。大。の。く。く。の。面。く。彼。足。の。九。郎。が。陣。場。の。不。審。こ。よ。敵。の。来。ぬ。く。敗。亡

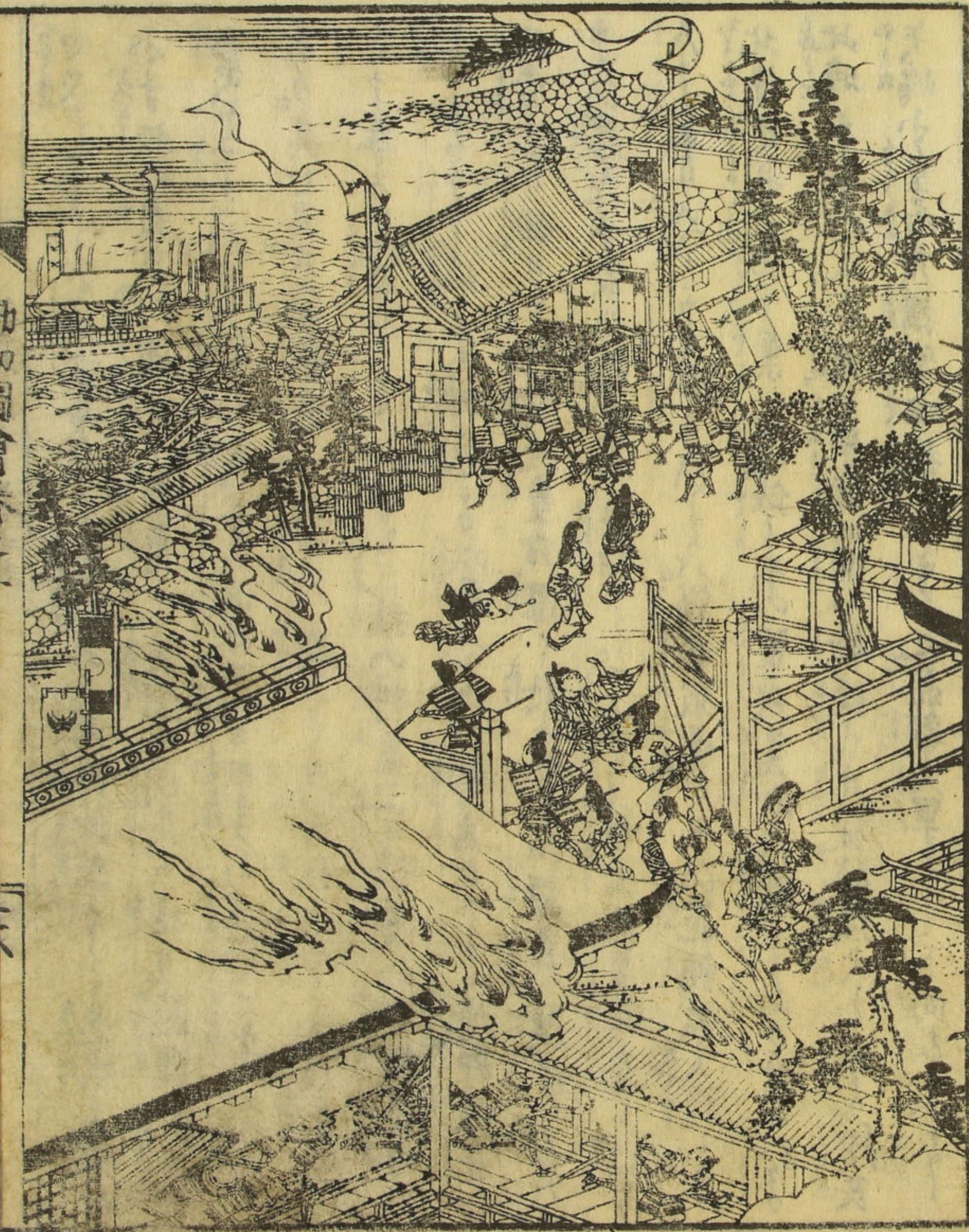
せし小何支の懼有。斯嚴小陣取。緒人義経。成勇。なり。と。魚軍
と能く。恐。し。死。物。と。思。く。く。よ。と。朝。笑。ま。し。く。バ。告。ふ。者。有。く。義。経。公。是。成
ま。る。の。舎。見。か。く。浦。殿。と。兵。法。小。疎。死。人。哉。凡。將。乃。軍。小。勝。く。三。角。之。兵。檢
高名乃善悪。成死小軍小勝。く。く。の。心得。油。断。く。備。あ。死。則。と。將
乃亡命。之所。小あり。古人も軍小勝。く。く。如。不。勝。と。く。縋。り。討。殘。ま。り。
敵。此。郎。黨。悪。侍。と。刺。違。ん。と。瞭。成。窺。も。あり。或。ハ。敵。軍。二。百。騎。三。百。騎
味。方。乃。軍。小。紛。へ。く。直。小。蒐。入。変。も。有。さ。れ。し。軍。小。と。勝。く。も。不。慮。乃。負
あり。是。故。小。兵。書。小。も。軍。小。負。く。懼。く。変。勿。を。軍。小。勝。く。急。更。勿。れ
と。智。り。陣。の。池。の。形。圓。小。く。不。可。破。勝。く。甲。乃。緒。成。歸。と。兵。家。乃。習
なり。後。漢。乃。光。武。の。度。兵。成。發。ま。れ。を。頭。髪。皆。白。髪。と。なり。たり。く。く。や
浦。殿。軍。更。小。心。成。用。ふ。更。察。あ。く。ね。む。く。と。追。手。の。合。戦。小。も。知。盛。の。兵。小
追。立。ら。し。も。符。成。敵。小。奪。は。れ。の。り。口。惜。死。次。弟。乃。く。く。也。其。上。関。東

成打立より以未滿殿の高名何変らある未嘗征伐小も吾先守治の
手成攻敗むこと軍小勝し是より千里成行く勞せざる人あり地成行を
かり攻む必取ハ其守ざる所成攻まを存り今日軍吾成始二百余人
必死し成く鳥も通りぬ嶮岨成落し城小火成けこれこそ生田の手
を破るくころ小あはどやと仰るを諸士其軍慮の察あり小感伏
大将の神機妙算凡慮の及ぶを小あはす蒲殿根小辨誘まふ
こそ愚あましとを誘け

範頼義経西國下向之條

去程小の谷の合戦源軍全く勝利を得る範頼義経兩将二月九日京
都へ飯陣ありて禁廷及び鎌倉へ捷軍の往進あり其趣を昨七日二
の谷の合戦味方全く勝利成得手氏多く命成落し前内府宗盛以
下先帝成供奉し四國の方へ落行畢ぬ就中重衡成生捕其外忠度

通盛経俊以上三人蒲冠者の手小討取経政師盛教経三人を遠江守義
定の手へ討取教盛知章業盛盛俊以上四人を義経の手へ討取其余の
首敷壹千余役しとてゆえなる一院殊小敬感斜あり其功成賞あり
四月十日範頼義経院參ありて此度討取所の首大路成渡し鼻前
敵為養向有々々小朝廷小を平家小因あり公卿多々れを免角中妨
げ彼二門朝廷小事く年久くわね優恕の御汝汰有渡りし死
方然危うくと群議一決し其旨兩將へ中渡させし範頼義経大以小
歎たらし臣等軍略小寝食成忘る百幸千苦し朝敵成亡し度も
一小を萬乗の君の震襟成休奉らる為二小を父祖乃仇成報せんとの
小保元小為義亡び平治小義朝討むに願も大路成引渡され梟首
せしむに今度敵徒の首小限り渡させんとん今より免成脱旗成巻
山林小身成隱朝敵征伐仕ふしと強小養しといふ公卿も



落城の図

三十一

落城の図

力及たず。さうも渡す能く。勅行ある。兩將欣然。退出。即時
 小十板の前成引渡。島前。重衡と因東へ送り。范頼も且鎌
 倉を下られ。斯く其年乃四月廿六日甲子。小元暦元年。改元
 あり。其七月廿八日新帝大政官の廳。御即位す。後鳥羽院
 して奉る。此君なり。されども三種の神。安徳帝の御行。在
 都ふ。より。は。神代より。以来八十二代。神。御。在。ハ
 此帝より。始り。院。此。更。深。歎。せ。録。倉。院。使。と。九
 手。急。手。家。乃。殘。堂。成。追。討。三種の神。更。故。か。幸
 たり。奉。り。い。と。中。させ。い。録。倉。殿。承。り。い。范。頼。成。大。將。と。し
 北條。足。利。武。田。子。乘。三。浦。佐。木。の。輩。成。差。副。西。國。下。向。させ。ら。れ。る
 此時。手。家。乃。入。三。中。國。四。國。と。斬。徒。其。威。稍。強。大。と。なり。續。及
 矢。嶋。小。皇。居。成。構。軍。略。種。く。あ。み。范。頼。大。軍。少。く。下。向。と。なり。

中。途。少。く。御。よ。と。大。將。小。松。三。位。資。盛。日。出。將。有
 盛。丹。後。待。從。忠。房。三。人。兵。船。五。百。余。艘。小。取。棄。く。備。前。兒。島。乃。城。小。籠
 り。且。湊。く。乃。回。船。浦。く。乃。捕。船。追。索。く。取。隠。々。れ。海。上。三。十。里。と。あり。と
 二。葉。乃。散。漂。く。も。方。り。り。范。頼。ハ。斯。も。あ。守。陸。地。成。進。發。し
 備。前。の。西。川。尾。藤。戸。小。津。成。張。敵。城。と。ハ。海。面。二。十。余。町。成。隔。く。白。眼
 合。々。み。船。一。艘。も。あ。け。ま。海。成。涉。ん。中。も。た。く。徒。小。日。次。送。処。小。佐。未
 盛。綱。佐。と。思。慮。成。四。一。夜。竊。小。漁。者。成。招。く。海。上。乃。淺。深。成。探。聞。翌。日
 手。勢。成。率。く。馬。め。く。海。成。涉。り。敵。軍。小。菟。向。く。六。和。田。三。浦。乃。徒。扱
 ち。思。い。より。海。成。淺。れ。と。く。一。度。小。渡。く。戦。い。平。家。大。小。敗。軍。し
 大。將。左。馬。頭。行。盛。討。ま。れ。其。余。乃。徒。と。皆。悉。く。落。失。たり。三。浦。殿。大
 小。小。悦。喜。有。績。く。平。家。成。連。討。せ。ん。と。思。れ。々。と。も。船。方。々。と。是。非
 存。く。空。乃。津。小。滯。留。し。ら。れ。々。と。遊。君。成。集。々。酒。宴。信。樂。小。日。成。送。り

多々れバ諸軍殆退屈一兵糧乏乏成ぬきた。蒲殿も是小警死斯
 くら如何しく。周防すく押下られうども。何分船ふれを敵成
 命死中へ。鎌倉へ早馬成馳一兵糧及ハ兵船成賜らむを。敵成
 手どくし終々まじも。頼朝公如何思召々。疾小も及答かく徒小日
 成過さまきり。茲小源曹子義経公ハ帝都警衛す。在京しく御
 坐在々小何成者う幾下く鎌倉殿。義経公行小ハ捨賞も与りれ
 ば。任官吹挙乃汝汰もふるをくれむ。義経公大ハ小好多ハ此度木曾
 浪一平家成追落せハ皆我方すより出る所ある小蒲殿成す。先
 衆夫小任官吹挙有あぐ。義経一人其汝汰もあれたそ不審おれ心
 呪ひのます。快くしく快くく。院此更成聞召真小義経が戦功
 莫大ナル小鎌倉より朝廷へ何とも出さるを不審あを頼朝公ハ
 鬼まき角すも。有功の義経成其終差置細く。左衛門尉小任

一のいし。義経公怒眉成用のハ其旨鎌倉へ通達あを。佐殿心中
 不快なる。勅命の上と力なく。朝思成亡却を命うすし中返さま
 々。二院尚も御最員乃余り。十月十日義経公小院内の昇殿成免され
 々。御怡悦限なく。八葉の車小駕一扈從衛府三人供の侍人各
 騎馬小乗。庭上小於々舞踏。劔笏成搔上殿上小参候あを。其跡
 真小美く。いどいえのひ々。程の。其年も暮く。元暦二年の春
 小介り々。処鎌倉より西國加勢の爲。數万の源軍。京著。義経其全
 將。る。る。る。音。来。くれ。義経公急死。参内あり。大倉卿安経朝臣小
 就く。美。向。有。々。ハ。範。頼。鎮。西。小。有。く。衛。敵。乃。魂。成。柱。い。い。も。い。い。も。
 暮く。一。合。戦。も。不。遂。宗。盛。を。先。帝。女。院。成。守。護。し。く。讃。州。矢。嶋。小。屯
 一。知。盛。門。司。が。関。小。障。し。く。國。成。功。塞。成。官。物。成。押。奪。船。成。り。集。て
 支。ひ。し。り。範。頼。進。く。戦。更。能。守。空。く。長。陣。し。く。既。小。兵。糧。乏。く。難。渡

仕ふ由斯く平族亦く勢成得く征難くはく仍く臣此度京著せし
 東國勢成隨手家小菟向ひ根成斷棄成枯三種の神善成善く入
 御方奉りひ之間追討使の官有成下賜りひし願ひしは緒卿の
 手家小内縁有入く義経向方を又何成烈た合戦成し手家の二門成
 亡し盡人も難知只苗小不如く一院小奏も六今般義経成四國下ま
 小於と帝都成守護し奉る命成武士かく不意小凶變有人も難知ひ
 義経六帝都小止りひ余人成脚下有方可然いんし妨ゆども院と
 唯一日も早く三種の神善成入御し奉り思召遂小義経小官府と止
 賜し六義経公依然くく三度押戴り入宿所小弛飯り先武藏常陸
 伊勢龜井能井の五人成召く急死大江の泊小下り四國渡海の船も
 せよし命も五人承りく正月十六日小提明表へど下りる

義経勳功圖會前編卷之五大尾

